



元気っ子

No 319 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

令和5年度のおたよりもこれが最後になりました。らいおん組のおともだちはいよいよながさわ保育園を卒業、そして小学校へと進学です。くま組のおともだちはいよいよ最年長クラスとしてオレンジの帽子をかぶり、頼りにされる存在になっていきます。こあら組のおともだちは今まで幼児クラスで一番下でしたが、くま組に進級し、新こあら組のおともだちに幼児クラスの文化を伝承していきます。うさぎ組のおともだちはいよいよ一番大きな集団のクラスへと入っていきます。りす組のおともだちは1階に降りてうさぎ組の単独クラスで同僚性を育みます。ひよこ組のおともだちはりす組へ進級し、これまで以上に活発に遊び、好奇心旺盛に探索活動を行います。それぞれ残された1ヶ月間を大切に過ごしながら、職員一同、子どもたちと全力で毎日を送っていこうと思います。

先日の新聞で日本の2023年の出生数が75万8631人で8年連続の減少という記事がありました。この数値は推計よりもかなり減少スピードが速く、国立社会保障・人口問題研究所が昨年4月に公表した将来推計人口においては2035年に76万人を割って75万5千人になると推計していました。推計値よりも12年も早い計算になります。団塊の世代、保育園の子どもたちからみたらおじいちゃん・おばあちゃんの世代の出生数は約270万人だったことを考えると、国の少子化対策は急務と言わざるを得ないでしょう。これも日本だけではなく、お隣韓国においてはさらに深刻で、出生率が0.72人とのことです。

急激に人口が増加に転じることは考えにくいですし、労働力は減少し続け、どこも人手不足に陥ることかと思えます。そうなると単純作業はロボットや人工知能がこなし、「人間にしかできない」仕事だけが生き残っていく時代が、そう遠くない未来にやってくると思えます。

危機感を募らせているのは大学です。優秀な学生を多く集めなくては少子社会においては生き残っていきなくなります。そのような中で、先日の朝日新聞に、国立大においても総合型選抜入試が広がっているとの記事がありました。総合型選抜入試はいわゆる暗記などにおける認知能力を測るものではなく、社会情動スキル、いわゆる非認知能力を測るものです。すでに導入している東北大学ではそういった総合型選抜入試を突破してきた学生は「学ぶ意思、意欲が高く、学生全体を引っ張ってくれる」と評価しています。

乳幼児期にこれらの資質能力の基礎を、経験を通して身に付けていくことの大切さは、保育所保育指針の「乳幼児期における（中略）主に社会情動的側面における育ちが大人になってからの生活に影響を及ぼすことが明らかになってきた」という部分からも明白です。保育においてこれらの資質能力が育まれるような環境を大切にして参ります。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、令和5年度も様々なご協力のお願ひにご理解を賜りまして、本当にありがとうございました。令和6年度につきましても、ひたむきに「子どもの最善の利益」そして「こどもまんなか社会」の実現を目指して、保育の質の向上ならびに保育環境の充実を目指して参りたいと思います。何卒ご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。